

なぜ洞爺湖には水がたまっているのか？

洞爺湖有珠山ジオパークでは、「大地の成り立ちの物語」の面白さを地域づくりにつなげるため、さまざまな情報発信を行っています。

大地の成り立ちを紐解く「地学」の醍醐味は、

目の前の風景の仕組みや成り立ちがどうなっているかを考えることにあります。今回は、「洞爺湖になぜ水がたまっているのか？」について考えてみましょう！

①洞爺湖は流れる水のターミナル



約 11 万年前にとっても大きな噴火が起こり、洞爺湖の原型となる大きな窪地ができました。水は低い所へ流れるため、周辺の大地に降る雨や雪がここに集まり、現在の洞爺湖になりました。

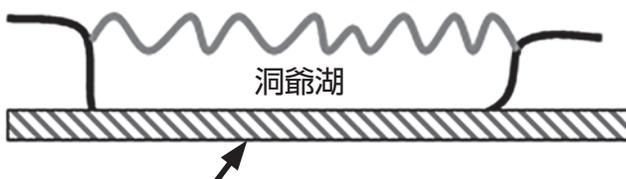
②洞爺湖は節水上手



洞爺湖に集まった水は、壮瞥町にある壮瞥滝から出て壮瞥川になり、やがて長流川に合流して、噴火湾へと注ぎます。壮瞥滝は洞爺湖唯一の、自然の水の出口です。

③洞爺湖の下に秘密が？

(※これはイメージです)



「水を通しにくい地層」が水の浸透を防ぎます。

大量の水を貯えている洞爺湖。もし湖の下が砂のように水を通す地層であれば、これだけの水はたまりません。そのため、水の下には水を通しにくい地層があるのではないかと考えられます。

④一緒に考えてみませんか？



私たちが暮らす洞爺湖有珠山ジオパークには、大地の成り立ちをはじめ、まだ分かっていないこともたくさんあります。身近な風景の中にある「謎」を見つけて、推理してみるのもジオパークの楽しみ方の一つですね。

洞爺湖有珠山ジオパークは、北海道伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町の4つの市町の取り組みです。さまざまな活動を通して、この地域の大地の魅力を伝えていきます。